

## 令和 6 年度 第 1 回燕市総合計画審議会 議事録

日 時	令和 6 年 7 月 31 日（水）午後 1 時 30 分から 3 時 00 分
場 所	燕市役所 委員会室
欠 席	水澤彰郎委員、高浪智哉子委員、渡邊優子委員

### 1. 開会

#### <企画財政部長挨拶>

今年 4 月から企画財政部に配属になりました杉本と申します。

7 月ももう今日で終わりというところでございますけれども、今年はいまだ新潟県は梅雨明けに至らず、なかなか蒸し暑い日が続いておりますが、足を運んでいただきまして、大変ありがとうございます。

さて、皆さんご承知のとおり、令和 4 年度にこちらの審議会において慎重審議の上、答申をいただきました第 3 次総合計画の計画期間が、令和 5 年度からスタートをいたしまして、1 年を経過したところでございます。

本日の協議につきましては、毎年実施しております市民意識調査の結果報告に続きまして、計画 1 年目の進捗状況についてご説明申し上げます。これについてご協議いただくとともに、地方創生に関連したデジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業の効果検証もお願いすることとしております。

また、少し話が変わりますが、第 3 次総合計画はいわゆる持続可能な社会の実現を目指して、国連で採択されました SDGs の理念を取り入れて策定をしております。今年に入りまして、内閣府が全国の自治体に対しして、令和 6 年度の「SDGs 未来都市」の募集を行いました。本市は総合計画に沿いまして、「ものづくり」を核とした産業などの地域資源を生かして、持続可能な社会構築を目指していくことを内容とした SDGs の提案を国に提出させていただいたところであります。その結果、5 月下旬に内閣府が全国で 24 の都市を「SDGs 未来都市」に選出しましたが、その中に燕市もすぐれた取組であるというご評価をいただきまして選ばれたところであります。

この総合計画を推進することによりまして、SDGs が目指す持続可能なまちづくりにも関われるという仕組みになっておりますので、本日の審議会においてその概要についてもご説明申し上げます。また、来年度以降、本審議会で SDGs の取組についても、進捗管理をお願いしたいと考えているところでございます。

今後とも、委員の皆様からご意見をいただきながら、総合計画それから地方創生、SDGs、これらに取り組んでいきたいと考えておりますので、本日は忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 2. 新任委員の紹介

今年度は、本審議会委員の任期の 2 年目であります。所属団体における異動等により、委員の交代がございました。新たに委員に委嘱されました委員の方々をご紹介します。

#### <名簿により事務局より紹介>

なお、本日の審議会の出欠状況であります。燕市医師会の水澤委員、つばめ商工会の高浪委員、分水高等学校校長の渡邊委員の 3 名から、あらかじめご欠席の連絡をいただい

ております。委員 23 名中 20 名の出席であり、会議は成立することをご報告いたします。

### 3. 報告

#### (1) 市民意識調査結果について

＜事務局より、資料 1 「令和 5 年度市民意識調査の結果について」の説明＞

(会 長)

ただいま事務局から、概要が説明されました。一応報告ということでございますが、確認しておきたいことや、尋ねておきたいことなどございますか。

(質問・意見なし)

このあとの協議のときにも関連してお尋ねになられると、より理解が深まると思いますので、改めてお聞きになられると良いと思います。それでは、この報告事項につきましては、以上とさせていただきます。

### 4. 協議

#### (1) 第 3 次総合計画成果指標の令和 5 年度達成状況について

(会長)

これも報告のようなものでございますけど、本審議会として承認するかどうかということと、協議題として位置づけたいと思います。それでは事務局は説明をお願いします。

＜事務局より、資料 2 「第 3 次燕市総合計画-施策別指標達成状況一覧-」の説明＞

(会 長)

ただいま事務局から説明がありました。ご質問、ご意見がございましたら、お願いします。

(委 員)

7 ページの、「次代につなぐ教育の推進・子育て支援」について、2 つ質問させていただきます。

まず今週火曜日、新潟日報に全国の小 6 と中 3 の学力テストの結果が出ていました。

新潟県は、ほとんどが平均を下回っていました。唯一新潟市の小 6 の国語だけが全国平均を上回ったという結果になっていました。これに関連して燕市の場合は、この点数の平均はどうだったのか、これをご開示いただきたいと思います。

(事務局)

- 今年度の全国学力学習状況調査の数値につきましては、この場では、公開について差し控えさせていただき、傾向についてお伝えしたいと思います。小学校の 6 年生の国語につきましては、全国の平均値を上回っているという結果でございます。そのほかにつきましては、ほぼ同程度であります。中学校の数学につきましては、県と同じような傾向が見られるということで、ご報告させていただきます。

(委 員)

- なぜ公開出来ないのですか。それがそもそもまず疑問です。そういう情報を出して

こそ、いろいろな具体施策、改善策につながっていく意見が出ると思いますが。公開出来ませんという理由がよく分らないです。

(事務局)

- またしかるべきときに時期を変えて、市の状況を公開しようと思い、まだ各方面にお話していない状況ですので、この場では差し控えさせていただきたいと考え、概要のみお話しさせていただいております。しかるべきときに、市の状況を公開したいと考えております。

(委 員)

- 最初からそういうふうに言っていただければ、なるほど。はい、分かりましたというのに、最初の答弁だと、公開出来ませんと言われるから、なぜ隠すのかって話になるわけです。

少なくとも、次回の審議会におきましても、まず結果がどうだったのか、そして、全国あるいは新潟県、この平均よりも劣っている部分については、燕市として、どういう形で対策をとっていかようとしているのか、この2点を報告していただけますか。次回で結構です。

(事務局)

- 今いただきましたご意見を踏まえて、検討してまいります。

(委 員)

2点目です。この7ページの教育の充実のところ「偏差値平均50以上の、中学1年生から3年生の教科の数、ただし中1の英語を除く8教科」のところ、基準値は令和4年度の3教科ですが、令和5年度については、0教科と書かれています。

この資料の読み方というのは、8教科について取り組んだものの、ゼロ教科で終わってしまったというふうに読んでよろしいでしょうか。

(事務局)

- おっしゃるとおり、令和5年度については、残念ながら0教科でありました。

(委 員)

- この「進捗に対する要因分析」を読んでも、具体例的なものが全くなくて、要領をつかめません。中間目標の令和8年度まで、あと2年ですね。

6教科まで引き上げていこうとしているのに、今現在は0教科。この要因分析で、我々に何を分かってほしいというのが全く見えてこない。もっと具体的に、いつまでに何をすることかということを明示する必要があると思います。

皆さんお分りのように、子どもは地域の宝です。この間、職場体験に燕中学校と吉田中学校の2年の皆さんが7名来てくださいました。すごくきらきら輝きながら、将来の夢を語ってくれました。そんな子どもたちが通っている、この教育の現状は、大人たちが変えていかなければならない。目標に掲げていながらこの状況をどう打破していくのか。

この要因分析では、具体的なものが見えてこない。何か具体的に動いているのでしょうか。1年度、1年間の結果を踏まえて。

(事務局)

- 「読解力育成プロジェクト」という取組を行っております。今現在、令和7年度まで、まずこの取組を実施していくこととしております。もう少しご説明を申し上げます。

すと、この読解力育成プロジェクトでリーディングスキルテストという、どの程度、読解力が身についているのかというテストを踏まえて、授業中、あるいは家庭学習において、読み取る力をつけるための学習の仕方をしています。また、認知機能トレーニングを小学校6年生で取り入れながら、読解力を向上させることによって、子どもたちの実績を高めて、教科の数の目標を高めようというふうに取り組んでいるところでございます。

(委 員)

- 教育の問題については、1年やったからどうか、すぐ答えが出るような問題ではないというのは十分承知しています。

この総合計画は、先ほど事務局から説明していただきましたけど、やはりうまくいっている項目もたくさんあって、本当に頑張っているなど読み取れます。しかし、うまくいってないところについては、どうやって何をいつまでしようとしているのか、少なくともこういう場で、具体的に話が出ないと。何のために集まっているのかってことになると思います。うまくいっているのはお任せします。引き続き頑張ってください。うまくいってないことについては、こういうことをやろうとして、こういうことに取り組んでいるので、審議員の皆さんもご理解いただきたいと、そういう説明があって然るべきだと思います。

(会 長)

- 具体的にはこの要因分析のところですね。例えば7ページでは「教員の授業づくりのサポート強化が必要」というように方向性を示していますが、何がこの現状の要因だったのかといったことも、より具体的に深く探索する必要があるのではないかなと。委員のご指摘を踏まえて、さらに改善をお願いいたしたいと存じます。

(委 員)

32ページですけれども、令和6年度の主要事業の「中心市街地再生モデル事業」について、「地区を超えて勉強会を実施するなど交流を促進」とあるのですが、この勉強会などの予定は広報しているのでしょうか。

(事務局)

- 「中心市街地再生モデル事業」の勉強会につきましては、もちろん広報、周知をしていきたいと考えております。少し日が迫ってきてはおりますが、吉田地区で勉強会を開催すべく準備を進めており、本日から配布をする流れで準備していたところでございました。

(委 員)

- ありがとうございます。配布というのは、広報つばめなどですか。

(事務局)

- チラシで、周辺の地区の方々、関係する方々へ配布する予定でおります。

(委 員)

- これに関連して「まちなかにぎわい創出事業」ですけれども、私は吉田地区の駅前の商店街に住んでおりまして、商店会でも非常に興味を持っていて、吉田地区でも何か、この事業に参加したいと話していました。それで、ホームページで調べたところ、少し驚きました。

吉田地区でも、この事業が既に展開されていて、令和4年から行われていたらし

いのですが、近所に住んでいて全く分かりませんでした。商店会のほうにはこういう事業を展開しているというようなことは全然伝わっていないくて、そんな状況で、このにぎわい創出につながるのかなと少し疑問を感じているのですが、今後はいろいろ教えていただくことはできるのでしょうか。

(事務局)

➤ 32 ページの、まちなかにぎわい創出事業の伝達といいますか、広報が伝わりにくいっていうお話でしたけども、少し遡って、この事業がなぜ出来たかというところから説明します。平成 30 年、大分前ですけども、産業振興協議会を市は立ち上げました。商工会、商工会議所や関係団体の方に集まっていたいて、産業施策を効果的に実施していこうと。その中で小売商業のワーキングが立ち上がりました。

その翌年に、発展的にまちなかにぎわい創出懇談会というものが立ち上がりました。どういった組織かというところ商店街に関係ある若手の人ですとか、商店街の関係者の方々が、令和元年から 3 か年ぐらい協議を進めていく中で、各地区で商店街を活性化するためにはどういった取組をやっていたらいいかという具体的な案がまとまってきました。令和 4 年から、燕地区であれば宮町近辺の中心市街地再生モデル事業と連携した事業をやっていたりとか、吉田地区であれば、小規模イベントの定着化によって継続した集客を図るトコマルシェですとか、定期市と連動したイベントをやっていく、分水地区であれば、地域の祭りを再編して新たな定期市を企画するとか当初そんな企画でやっていました。

そうした中で、各実施主体がいて、令和 4 年から今年で 3 年目になるわけです。それらの情報が伝わりにくいということで、市のホームページや、従来やっているような周知の仕方は当然してきた中で伝わっていないということであれば、また、どういった周知の方法が効果的なのか考えていきたいと思います。

ただ、こうした若手や商店会だけの新しい取組だけでなく、既存の事業も当然やっています。燕地区であれば 200 メートルいちびを商工会議所さんと一緒にやったり、燕市の商連さんと天神講祭りなどイベントを実施したり、あと吉田地区であれば、まちゼミやクリスマスの福引売出しなんていうのも商工会さんに支援したりとか、分水地区であれば、おいらん道中のまちなかフェスというのは R5 年度、補助金で支援しています。そうした一連の中で、まちなかを活性化していこうということで、お尋ねの PR 方法については、先ほど申しましたが、どういった方法がいいか検討していきますので、よろしくお願いします。

(副会長)

燕市のこの総合計画の達成状況の一覧表を全て見させていただきまして、先ほどほかの委員からもありましたように、とても成果が上がっているように思いました。

32 ページ、委員からもちょうとご説明があったところですが、「居住誘導区域内の戸建住宅新築数」というところに黒い三角が記されております。この令和 5 年度実績 102 棟ということで、全体の 41%が居住区域内でしたということで、それが低いというふうに判断されていますが、他都市と比べますと、これもすばらしい数値かなというふうに思っております。

他都市ですと、残念ながら分譲地が郊外のほうに多くございまして、なかなかまちなかに住んでいただけないというお話がございます。従いまして、この数値はそんなに悪くはないかなというふうに感じております。ただし、この数値は戸建ての新築数ということで新築だけに限られております。他の項目にもありますように、例えば空き家ですとか、いろんなものがございますので、Uターンで帰られた人たちが、いきなり新築を建てるのはなかなか難しいとすると、空き家などをどんどん利活用していただくような動きを数値的に捉えて、これとあわせて評価されると、委員からお話がありましたような、燕市

の中心市街地の活性化など、他の事業とも相乗効果が出るのではないかというふうに感じております。

逆に言いますと、少し質問になりますが、空き家バンクなどのお話も書いてあるのですが、そういうUターンですとか、新規にIターンで来られたような方が、新築だけではなく、空き家などを活用した事例を把握しておられるかどうかということを、事務局にお聞きしたいなと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局)

- 空き家に入居する、ということにつきましては、当然、把握出来るものと出来ないものございまして、空き家バンクに関するものであれば、情報としては入ってきますが、空き家は不動産事業者から流通している部分もございまして、全体として数字を把握するのは、これからまだ検討が必要なのかなというふうに考えております。

(副会長)

- ご存じのように、人口減少が進みますと、これから先、世帯数も減っていきます。要するに、1世帯に1住宅以上もう既にあるというところで、新築をどんどん進めていくというのは、実は、片方で空き家が増えていくということにもなります。空き家を使うとか空き家を除却してその上に新築するとか、そういうことを進めていくのが、燕で生まれてくる子どもたちが、空き家の処分に困らないということになります。

そういう意味でいうと、居住誘導区域内で、新築住宅が建つという非常にいいことなのですが、除却とセットにされるとか、空き家に入っていただくとか、そういう制度と絡めていかれると非常にいい制度になるかなというふうに思います。

(事務局)

- 少し補足をさせていただきます。  
今の空き家の件でございますけども、現在取り組んでいる施策としては移住家族支援事業という、よそから燕市に入ってきて移住された方に住宅の購入費を助成するという事業をやっております、その中で空き家を活用していただく方は、通常よりも支援を上乗せするという制度がございます。  
こういった事業もやっておりますので参考までにお話しさせていただきました。

(委員)

質問というか要望になるかもしれませんが、8ページのことでお願いいたします。令和5年度主要事業等の取組ですけれども、保育士等修学金の貸付けのところですね。保育士人材が不足しているため、本事業を介した改善として人材不足が課題となっているところでございます。

この事業自体ですね、私が知る限りでは新潟県の30市町村の中でこれをやっているところは、燕だけなのではないかと思います。ですが、なかなか実効性がなくて、依然として人材不足が課題になっています。令和6年度にはさらに、また新しい支援策をしてくださっていますが、新潟県に保育士、幼教保育士がいらないわけではございません。大学の先生はよくご存じでしょうけれども、養成校は新潟県にたくさんございます。その卒業生が、主に関東方面に出ていくと。いわゆる新潟県の社会減の大きなところを担っているのではないかと思います。養成校の先生方も「私たちも新潟におきたいんです。けれども、決めるのは生徒です。」とおっしゃっています。金銭的なことで考えますと、簡単に言いますと、国の制度で、東京に勤めたほうが新潟よりも、所得が2割アップするということになっています。それに東京のそれぞれの区がプラスアルファをつけますので、金額だけ考えると大変な差になります。

これは、燕市だけで財政的な措置をとっても、とても対抗できるものではないと思います。こういう問題を抱えているのは、燕市だけではなくて、東京を除く、ほぼほぼ全ての市町村なんじゃないかと思っています。ですから、燕市だけではなくて、ほかの市町村との連携の中で、こういう問題を解決していかないと、みんな東京に吸い上げられると。他市町村あるいは他県との連携とか、そういうことは今後考えられますでしょうか。

(事務局)

➤ 私どもも、近隣の三条市さんや弥彦村さんなどと情報交換はしております。また、県主催でのオンラインでの会議も参加をさせていただきまして、今委員がおっしゃったとおり、都市部への人口流出ということについては、各自治体が共通の課題としてもっております。ただ、なかなか県内で足並みをそろえてというところまでは、今すぐお答えできるものではありませんが、燕市として、まずはできることということで、保育士確保に向けた、私立保育園等奨学金返還補助金など、いろいろな形で燕市に保育士が就職できるような取組を進めております。

そういった制度の周知ということで、令和5年度は8つの養成校へ伺い、いろいろと燕市の取組をPRさせていただきました。また今年度に入りまして、同様に保育士の養成学校を回って、事業のPRに努めています。加えて他市との連携のほうも、今後検討していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(委員)

もう一つよろしいですか、16ページでございます。基準値と令和5年度の実績を比べたときに、基準値は令和3年度ですからコロナ禍の真最中です。これに比べて、令和5年度はコロナが落ちついてきて、当然利用人口が上がっているというところは、当然のことだと思います。一方、「進捗に関する要因・分析」説明のところにある「スポーツ活動の環境整備」、私はこの部分についてお願いしたいんです。今年の5月か6月でしたか早い時期に新潟県の市町村の中で小学校、中学校の体育館に冷房を設置しているところが8市町村9施設なんていう、記事が出ていたと思います。

燕市では、いち早く小中学校の体育館にスポットクーラーが入りました。これは他市町村に先駆けた取組だと思って、私も喜んでおりますけれども、順番があるのでしょうか、体育館は冷暖房設備がありません。昔から新潟県はちょうど寒い、暑い真ん中辺みたいな位置付けにありまして、冷房完備の体育館というのは少なかったのですが、最近近隣にも増えてきました。

現在は、7、8、9月は暑く、12、1、2月は寒いです。こういうことで、県大会規模の大会あるいはそれ以上の規模の大会で、燕市内の体育館を使いたいという希望さえもないのが現状です。ですから、ここで活動人口を増やそう応援人口を増やそうと思って大変厳しいところでございます。

承知していらっしゃるのだと思いますが、私どももいろんなことで、活動人口を増やしたいと、応援人口を増やしたいと、オリンピックイヤーでもありますし、考えておりますけれども、なんせこの暑さでは、万が一のことがあつては、管理者になるのか、主催者の責任になるのか分かりませんが、いずれにしても事故があつては困ります。大変難儀をしておりますので、この辺についてあえて回答は要りませんけれどもぜひご検討いただきたいとのお願いでございます。

(委員)

32ページのまちなかにぎわい創出事業についての質問なのですが、先ほども委員からいろいろお話しされていましたが、燕市宮町は、大きく変わってきています。どんどんまちが変わるのは結構なことですが、車を停める場所がありません。駐車場に関して

どんなふうを考えておられるのかと今、疑問が出ました。

(事務局)

- お話しされているとおり、宮町は新しく再開発されて、お店や、個人住宅が建って、その軒先が、駐車場になって。道の片側に 30 分間、駐車はできますよという地域になっているのですが、なかなか駐車するのに苦労されるという状況は、私どもも承知はしています。その中、第四北越銀行さんであれば、酒屋さんの隣にまた新たな駐車場を整備していただいている現状もあります。市としては、すぐに駐車場を用意出来ますという現状ではなく、個々の店舗の対応にお願いせざるを得ないということでご承知いただきたいと思います。

(委 員)

- ありがとうございます。やっぱり何か新しいものをつくるにしても燕の場合は、必ず駐車場をどうするかということをもまず考えないと、進めていけないのではないかと。常識的に考えればそうだと思います。それを抜きにして新しいものをどんどんつくっても、厳しいのではないかなと考えます。

(会 長)

どうもありがとうございます。

まだご意見があると思いますが、この後も協議題が控えていることもありまして、先に進めさせていただきたいと存じます。自宅に帰られて、疑問が生じたとか、新たに出たものにつきましては、事務局から別途照会する様式をお送りさせていただきますので、よろしくお願いします。

(2) 地方創生関係交付金活用事業の効果検証について

(会 長)

次に「(2) 地方創生関係交付金活用事業の効果検証について」です。

こちらにつきましては令和 5 年度に実施した 6 つの事業について、事業ごとに、指標、いわゆる KPI の達成を含めて、有効であったか否かといったことを検証することが審議会に求められております。それでは事務局から説明をお願いします。

<事務局より、資料 3「デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ・地方創生拠点整備タイプ）効果検証」の説明>

(副会長)

ご説明どうもありがとうございました。6 つの事業の中で 1 項目 KPI が下がったものがありますけれども、それ以外は全て増加しており、順調に推移していると捉えています。もし皆様にご反論がなければ、全て有効であったというふうにされてはいいかなと思いますが、いかがでしょうか。

(会 長)

ご意見ありがとうございます。委員の皆さんいかがでしょうか。

(副会長)

1 つだけコメントというか、3 ページ目の「周年事業をきっかけとした若年層の関係人口の創出」の 3 番目の KPI です。「本市出身の首都圏在住大学生等の交流事業つばめいの会員数」ですが、これ減ることが悪いのかどうかということについては賛否両論あると思います。

首都圏に大学生をたくさん送り出しているのに会員に入らないとするとこれはマイナスですけれども、例えば首都圏ではなくて新大とか、新潟工科大学とか新潟県内の大学にたくさん進学していて、首都圏に行っている大学生が減っているのなら、この数が減ること自体がそんなに大きな問題ではございません。

分母がどういうふうにとらえられるのかが難しいのですが、KPI のとらえ方についてその下に「卒業等を理由に脱退する会員の数が、新規会員の数を上回り」ということですが、これが先ほど言いましたように分母の数がどうなっているのかが分からないとちょっと評価しにくいです。出来ましたら、県内の大学にたくさん進学してもらって、県内で勉強し、なおかつこの燕で就職していただいて、ご活躍いただけるといいなと思いました。

(会 長)

続けて委員の皆様いかがでございましょうか。

特段ないようでございましたら、ただいま副会長からもお話がございましたが、この KPI 達成を含めて、有効であったか否かといったことについて、この審議会としましては有効であったと認めたいと存じますが、よろしいでしょうか。

(質問・意見なし)

はい、ありがとうございます。それでは、本審議会としましては有効であったというふうに認めたいと存じます。

## 5. その他

(1) SDGs 未来都市及び自治体 SDGs モデル事業への選定について

(会 長)

それでは 5. その他です。先ほど事務局の説明にございましたこの「SDGs 未来都市および自治体 SDGs モデル事業への選出について」に移りたいと存じます。

事務局から説明をお願いします。

<事務局より、資料 4 「SDGs 未来都市および自治体 SDGs モデル事業の選定について」の説明>

(会 長)

ただいま事務局の説明がございましたが、何か委員の皆様からご質問あるいはご意見など、ご提言などございますでしょうか。

(質問・意見なし)

では、私から。この「SDGs 未来都市」なるものに我が燕市が選定されますと、何かいいことがあるのですか。あるいは、その中でも 10 都市の「自治体 SDGs モデル事業」なるものに選ばれて何かいいことがあるのですか。

(事務局)

➤ ご質問のありました、SDGs 未来都市の選定につきまして、選定されたこと自体には燕市が SDGs に取り組んでいるということを PR できるということではありますが、このモデル事業に選定されますと、国のほうから補助金が交付されます。

上限がありますが、その範囲の中で、今回産業史料館の機能強化を図る補正予算を

組ませていただきました。国からそういった補助金が出るということでございます。

(会 長)

➤ 補助率は2分の1ですか。

(事務局)

➤ 2分の1の部分と10分の10の部分がございまして。2分の1の部分が、産業史料館の機能強化の部分、ハード事業です。そのほか、このSDGsに取り組んでいく燕市の姿勢を見せるためのPRをしていくソフト事業に対して、全額補助されるというものです。

(会 長)

分かりました。ありがとうございます。  
続きまして委員の皆様いかがでございましょうか。

(委 員)

今聞きまして、燕市としては、SDGsのゴール4、8、9、11に特化して頑張るということなのでしょうか。

(事務局)

➤ SDGsには17の目標があるわけですが、とにかくSDGsというと、例えば気候変動対策とか、再生可能エネルギーとか、環境面の取組に注目されがちですが、17ゴールの中には、持続可能な産業であったり、質の高い教育、住み続けられるまちづくりという目標もあります。それを総合的に進めながら持続可能なまちづくりを進めていくことになります。総合計画の中でも、SDGsの要素を取り入れながら、まちづくりを進めていくとしておりますので、モデル事業としては、この4つのゴールであります。総合計画としては、全てのゴールを目指してまちづくりをしていきたいと考えております。

(委 員)

➤ はい、ありがとうございます。  
私の一番の関心事は、ゴール3「全ての人に健康と福祉を」というところです。  
つい最近、山形のほうで、一日一回笑いをとということで、健康のための条例が出されました。それは県の条例として施行することになったのですが、本当に、一番大事なことは、元気で長生きすること、そのためには、やっぱり笑顔がとっても大事だということです。コミュニケーション取るにしても、仕事の上でも、健康の上でも、もういろんな面に対してそれが一番かなと。笑う門には福来るって言われていますけど、日本では、室町時代から言われている言葉なんですね。  
新潟日報に出ていたのですが、それくらい笑いは大切なものであるってことを皆さんに知っていただけたらと思います。

(会 長)

どうもありがとうございました。続けて委員の皆様からも。

(副会長)

ご説明どうもありがとうございました。冒頭でお話があった市民意識調査の結果の16ページ目です。「5年後10年後の将来を想像したとき燕市にどんなまちになってほしい

か」について、高齢者、障がい者などの皆さんも含めて「誰もが元気で安心して暮らせるまち」がトップになっていましたので、SDGs 未来都市計画を今後進捗管理していくならば、何か取り組んでいただきたいなというふうに思いました。

それと関連してなんですけども、同じこの市民意識調査の 10 ページ目に、市民の皆さんが不満があるという項目の一番が「交通の便が悪いから」になっております。今 SDGs の 4、8、9、11 が目指すゴールの中心でしたが、産業史料館を含めて、やはり市民の皆様がより移動しやすいまちになるような施策も取り込まれると、整備した新しいモデル事業が市民の皆さんが使いやすくなるような気がします。市民意識調査のご意見も踏まえて、ぜひ取り込まれるといいのではないかなというふうに思いました。

(会 長)

ありがとうございます。

SDGs の件については、報告を聞いたということで、最後に全体を通してのご質問、ご意見を賜りたいと思いますが、委員の皆さんいかがでございますか。

(委 員)

先ほど、健康で笑顔が一番というお話ですが、実際に介護を必要としている人も結構いらっしやると思います。ところが、たしか 7 月から介護保険の金額が上がりまして、率がかなり高くなっていて、1 割ぐらい上がったのかな。

それと燕市は、訪問介護の先生が 1 人もいらっしやらないというのを聞いています。何とかならないのかなと、日頃思っているのですが。実際に健康でない、病気を抱えている人も多いと思うのですが、その辺がどのぐらいいらっしやるのか、また訪問介護する先生が燕市は 1 人もいらっしやらない、珍しいところです。その辺も何とかならないのかなと思います。市としてどう考えてらっしやるのかお聞きしたいなと。

(事務局)

➤ 介護保険料が上がったとおっしゃいましたが、基準額は変えておりませんが、収入に応じ、率が変わっているものと考えます。また、段階が 9 段階から 13 段階に増えておりまして、そちらの段階に当てはまる方は介護保険料が上がっている方もいらっしやいますが、基準額は変えておりませんので、内容をご確認いただければと思います。

また、訪問介護の先生とおっしゃいましたが、訪問介護はサービスをしている事業所が、市内でも複数ございますので、訪問介護のサービスが受けられないということは、現状ございません。

(会 長)

➤ そちら辺はちょっと事実関係で、委員の方で調べられて、何かご意見等がありましたら、また改めて、事務局を通してご質問されるということでしょうか。

(委 員)

➤ どうもありがとうございます。

(会 長)

いかがでございましょうか。全体を通して、何かご質問なり、あるいはご意見などございますでしょうか。

(委 員)

佐渡が世界遺産になりまして、ここ新潟を皆さんから来ていただけるような県にしてい

かなければいけないとなると、燕市も考えていかなければいけないと思います。燕は世界に誇るものづくりのプロフェッショナルがいるし、国上とか分水、もう本当にいいところたくさんあると思います。

広い地域で連携をしながら、新潟佐渡と同じぐらいに、燕市も良いところがあるんだよっていうところを、皆さんに知っていただきたいと思います。

(事務局)

- 先般、佐渡が世界遺産に登録されまして、燕市としてもお客様を取り込んでいきたいなというふうに考えています。ただ燕市単独だけではなかなか、取組も難しいと思いますので、地域の市町村、また県と連携しながら進めていきたいというふうに考えております。

(委 員)

- ぜひよろしくお願いします。どうもありがとうございました。

(会 長)

先ほど申しましたとおり、うちに帰られてから「言っていなかった」という意見もあるかと思いますので、改めてご意見などお伺いしたいと存じますので、またそれぞれよろしくお願いします。事務局の方から何かございますか。

(事務局)

本日は長時間にわたりましてご熱心にご審議いただき、誠にありがとうございました。

本日の審議内容、ご意見などを踏まえまして、各種事業に取り組んでまいりたいと考えております。

さて、今後の予定についてでございます。今年度の審議会は、今回の1回のみとなっております。次回は、来年度ということになりますが、今年度と同様に年1回、またこの時期、夏頃の開催を予定しております。時期が近づきましたら、改めて、開催のご案内をさせていただきますので、よろしくお願いしたいと思います。

また来年度は、審議会の改選の年となりますので、後日改めて事務局からご連絡いたしますが、引き続き委員の自薦、推薦につきましてよろしくお願いしたいと思います。

(会 長)

どうもありがとうございました。予定していた議事は以上のおりでございます。これもちまして、令和6年度第1回の燕市総合計画審議会を閉じさせていただきます。皆様、大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。